

オリンピック・パラリンピック環境アセスメントについて

今回のフォローアップ報告書の環境局長への提出により、平成25年度より取組を進めて参りました東京2020東京オリンピック・パラリンピック環境アセスメント全ての図書について、環境局長への提出が完了いたしました。

オリンピック・パラリンピック環境アセスメントは、法律や条例に定められておりませんが、都として自主的な環境アセスメントを実施し、持続可能な大会の実現に向け取り組んできました。

オリンピック・パラリンピック環境アセスメント評価委員会において、会場整備に係る影響を評価する項目を抽出し、開催に伴う影響をできる限り低減させられるよう予測評価し、その後実際の影響についてフォローアップで調査し報告書にまとめ、実際に影響が予測した程度にとどまることを確認してまいりました。

また、会場整備だけではなく、全体計画や競技についても対象として取り組んでまいりました。大会運営や競技実施に伴う影響を広く評価するため、個別の会場ごとでは評価困難な広域的視点及び社会経済的な視点での評価や、屋外で行われる競技におけるアスリートへの影響等についても評価するなど、法律や条例のアセスにはない視点での評価を実施しました。

図書としては合計154冊を公表し、環境局が事務局の評価委員会については計60回開催されました。本取組の成果の図書につきましては、本文に記載のリンクからご覧いただけますので、こちらも合わせてご覧ください。制度の概要については、以下のとおりです。

1 目的

東京2020大会の開催が東京に与える影響を予測評価し、東京の持続可能性の向上に資することを目的とする。

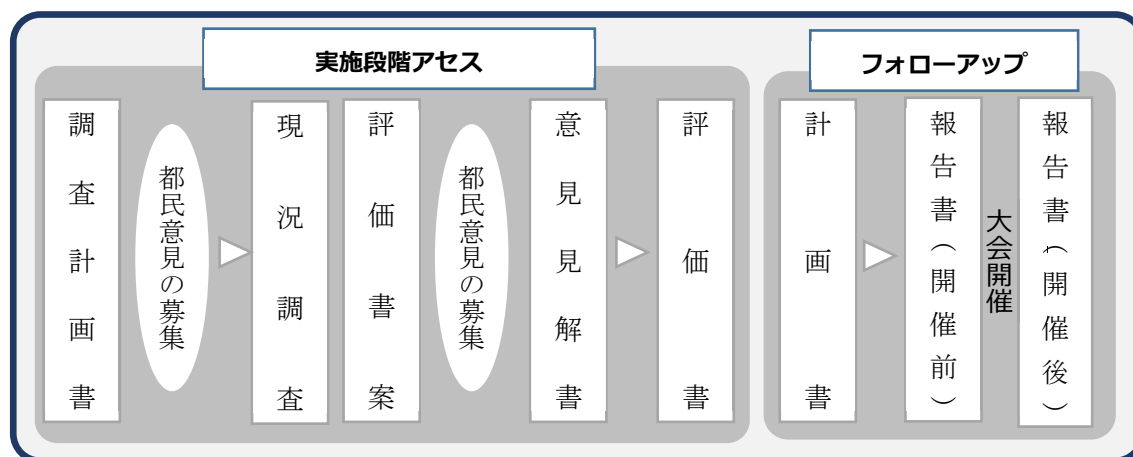
2 対象 45会場、競技、全体計画

新国立競技場（オリンピックスタジアム）	東京体育館	国立代々木競技場	日本武道館	東京国際フォーラム
国技館	馬事公苑	武蔵野の森総合スポーツプラザ	東京スタジアム	武蔵野の森公園
有明アリーナ	有明体操競技場	有明アーバンスポーツパーク	有明テニスの森	お台場海浜公園
潮風公園	青海アーバンスポーツパーク	大井ホッケー競技場	海の森クロスカン トリーコース	海の森水上競技場
カヌー・スラロームセンター	夢の島公園アーチェリー場	東京アクアティクスセンター	東京辰巳国際水泳場	選手村
IBC/MPC（東京ビッグサイト）	幕張メッセ Aホール	幕張メッセ Bホール	幕張メッセ Cホール	釣ヶ崎海岸サーフィンビーチ
さいたまスーパーアリーナ	陸上自衛隊朝霞訓練場	霞が関カンツリー倶楽部	江の島ヨットハーバー	伊豆ペロドローム
伊豆MTBコース	富士スピードウェイ	福島あづま球場	横浜スタジアム	札幌ドーム
宮城スタジアム	茨城カシマスタジアム	埼玉スタジアム2002	横浜国際総合競技場	札幌大通公園

3 評価項目

大項目	中項目	小項目
環境項目	主要環境	大気等、水質等、土壌
	生態系	生物の生育・生息基盤、水循環、生物・生態系、緑
	生活環境	騒音・振動、日影
	アメニティ・文化	景観、自然との触れ合い活動の場、歩行者空間の快適性、史跡・文化財
	資源・廃棄物	水利用、廃棄物、エコマテリアル
	温室効果ガス	温室効果ガス、エネルギー
社会・経済項目	土地利用	土地利用、地域分断、移転
	社会活動	スポーツ活動、文化活動
	参加・協働	ボランティア、コミュニティ、環境への意識
	安全・衛生・安心	安全、衛生、消防・防災
	交通	交通渋滞、公共交通へのアクセシビリティ、交通安全
	経済	経済波及、雇用、事業採算性

4 実施手順



5 実施期間

平成26年3月から令和4年3月まで 計9年間

6 作成図書

154冊

7 東京2020オリンピック・パラリンピック環境アセスメント評価委員会 (事務局：環境局)

平成24年7月から令和4年3月まで 計60回開催